

授業科目名：スポーツ ウェルネス研究1（ス ポーツ社会学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松尾 哲矢 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツを社会現象として捉え、それを取り巻く様々な問題を社会学的に検討し、スポーツと現代社会をめぐる理論的・実践的課題及びこれからのスポーツのあり方を考究する。			
授業の概要 近代スポーツに関する歴史的経緯とその社会的・文化的背景を踏まえて、現代社会におけるスポーツの理論的・実践的課題について社会学的に検討し、これからのスポーツのあり方について考究する。スポーツに関する論文を輪読し、それを踏まえながらスポーツの現在の課題を浮き彫りにし、これからのスポーツのあり方について全員で議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス：授業の進め方、自己紹介（研究領域と問題関心） 第2回：スポーツの社会学的理解 対象と方法 第3回：近代スポーツ発展過程とその背景 第4回：論文講読（1）近代スポーツの発展過程 第5回：スポーツの記号論 第6回：論文講読（2）記号論的アプローチ 第7回：スポーツにおける社会的逸脱（バーンアウト） 第8回：論文講読（3）スポーツ競技者のバーンアウト研究 第9回：スポーツにおける社会的逸脱（ドーピング） 第10回：論文講読（4）スポーツ競技者のドーピング研究 第11回：スポーツと政治・メディア 第12回：論文講読（5）オリンピックと政治に関する研究 第13回：論文講読（6）スポーツとメディアに関する研究 第14回：スポーツの近未来 ディスカッション、まとめ			
テキスト J. コークリー／P. ドネリー，前田和司・大沼義彦・松村和則共編訳（2011）「現代スポーツの社会学－課題と共生への道のり」南窓社			
参考書・参考資料等			

多木浩二（1995）「スポーツを考える－身体・資本・ナショナリズム」筑摩書房

学生に対する評価

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、授業内レポート（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究2（野外教育、環境教育）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奇二 正彦 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 持続可能な社会を作るため、環境思想や環境倫理を学ぶ。その後、持続可能な社会を作る方法の1つである環境教育の可能性を検討する。			
授業の概要 本講義では日本語または英語の環境思想・環境倫理の文献を教材に学ぶ。その上で、国内外の環境教育の実践事例に関する資料を検討し、これからの環境教育について議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、自己紹介 第2回：近現代社会と環境問題（1）「産業革命以降の社会と公害」 第3回：近現代社会と環境問題（2）「グローバル化と地球環境問題」 第4回：環境思想の源流（1）「キリスト教的自然観」 第5回：環境思想の源流（2）「ロマン主義～レイチェルカーソン」 第6回：環境思想の潮流（3）「人間中心主義と非人間中心主義」 第7回：環境思想の潮流（4）「エコロジズムと環境プラグマティズム」 第8回：環境教育の歴史（1）「世界の環境教育」 第9回：環境教育の歴史（2）「日本の環境教育」 第10回：環境教育を体験する（1）「内在的自然に気づく」 第11回：環境教育を体験する（2）「自然観察と環境保全活動」 第12回：SDGsとESD 第13回：これからの環境教育について考える 第14回：全体討議			
テキスト 加藤尚武(2020)『新・環境倫理学のすすめ』丸善出版			
参考書・参考資料等 David Sobel(2013)『Place-Based Education: Connecting Classrooms & Communities』 Orion Society			
学生に対する評価			

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、授業内レポート（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究3（トレーニング科学、コーチング）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 沼澤 秀雄 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツコーチングやトレーニングに関する研究論文等を精読して、スポーツ指導における新しい知見の理解を深める。			
授業の概要 スポーツにおけるコーチングやトレーニング科学についての研究動向について紹介して受講生とディスカッションする。また、スポーツ指導に関わっている受講生は指導実践について報告する。授業の流れとしては、トレーニングやコーチングに関する講義を受けて、テキストの中から興味がある章を決めて文献を読み、内容について発表する。			
授業計画 第1回：コーチング分野に関する文献紹介 第2回：トレーニング科学分野に関する文献紹介 第3回：コーチング、トレーニング科学分野の倫理申請について 第4回：論文抄読会の説明と割り振り 第5回：トレーニング科学講義（筋力トレーニング） 第6回：課題論文抄読の発表（1） 第7回：トレーニング科学講義（持久力トレーニング） 第8回：課題論文抄読の発表（2） 第9回：トレーニング科学講義（その他のトレーニング） 第10回：コーチング分野に関する講義 第11回：課題論文抄読の発表（3） 第12回：総説文献発表およびディスカッション（1） 第13回：総説文献発表およびディスカッション（2） 第14回：まとめ			
テキスト 著者名：David Daniel Lewindon 監訳：野坂和則・沼澤秀雄 書籍名：ハイパフォーマンスの科学 出版社：ナッパ 出版年：2018年 ISBN-13:9781450444828			
参考書・参考資料等			

「月刊トレーニングジャーナル」出版社：ブックハウス・エイチディ

「コーチングクリニック」出版社：ベースボールマガジン社

学生に対する評価

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、最終レポート（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究4（環境生理学、神経科学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石渡 貴之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 環境生理学そして神経科学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、パフォーマンスに対する生理・神経機能の働きやその向上方法について理解を深める。			
授業の概要 本講義では日本語または英語の環境生理学そして神経科学の文献や教科書を教材に学ぶほか、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、自己紹介 第2回：神経科学研究の手法 第3回：環境生理学研究の手法、倫理申請書の書き方 第4回：倫理申請書の発表 第5回：論文査読方法の説明 第6回：神経科学講義（運動と中枢神経系の関係） 第7回：課題論文査読の発表（1） 第8回：環境生理学講義（運動と遺伝子の関係） 第9回：課題論文査読の発表（2） 第10回：神経科学講義（生活習慣と中枢神経系の関係） 第11回：英語総説文献の検索方法、選定 第12回：神経科学研究の実際 第13回：環境生理学講義（体温調節とパフォーマンスの関係） 第14回：英語総説文献発表およびディスカッション、まとめ			
テキスト Physical Activity and Educational Achievement: Insights from Exercise Neuroscience, Romain Meeusen et al., Routledge, 2019.			
参考書・参考資料等 Sports Medicine, Journal of Applied Physiology, Medicine and Science in Sports and			

Exercise, Neuroscience Letters, Brain Research, Journal of Thermal Biology
--

学生に対する評価

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、授業内レポート（30％）
--

授業科目名：スポーツウエルネス研究5（ウエルネスジェンダー学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐野 信子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ジェンダーの視点からウエルネスについて考究するための基礎的な概念を習得し、また、現代社会にみられる健康問題、健康政策、健康教育のそれぞれについてジェンダーの視点から検討し、分析視角を養うことを目標とする。			
授業の概要 現代社会にはウエルネスをめぐる様々な問題がみられるが、ジェンダーに起因するものも少なくない。人々がより高次のウエルネスを追求するためには、ウエルネスをめぐる様々な事象についてジェンダーの視点からの問い直しが欠かせない。文献講読をし、議論をする中でウエルネスへの新たなアプローチを紹介する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：ジェンダー概念の検討（1）ジェンダー概念の登場 第3回：ジェンダー概念の検討（2）ジェンダー概念の変遷 第4回：ジェンダー概念の検討（3）今日的なジェンダー概念 第5回：健康概念の検討（1）Healthへの着目 第6回：健康概念の検討（2）Wellnessへの着目：1 萌芽期について 第7回：健康概念の検討（3）Wellnessへの着目：2 変遷と現状について 第8回：ウエルネスジェンダー論の現在：量的データから 第9回：ウエルネスジェンダー論の現在：質的データから 第10回：テキスト購読（1）序章、第1章、第2章 第11回：テキスト購読（2）第3章、第6章 第12回：テキスト購読（3）第4章、第5章 第13回：テキスト購読（4）第10章 第14回：まとめ			
テキスト 荻野美穂著（2002）ジェンダー化される身体、勁草書房			
参考書・参考資料等			

飯田貴子他編著（2018）よくわかるスポーツとジェンダー

学生に対する評価

中間レポート①（30%）、中間レポート②（30%）、最終レポート（40%）

授業科目名：スポーツウエルネス研究6（スポーツ栄養学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉浦 克己 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 運動時の物質代謝とこれに伴う栄養要求の変化について、運動の種類や強度・時間を踏まえて理解し、栄養教育の理論と応用についても学ぶ。			
授業の概要 英語の研究論文の講読を通して、スポーツと栄養の関係をより深く学び、スポーツ現場で直面する実践的な課題についても議論していく。同時に海外のスポーツ栄養学の研究と普及の現状についても解説していく。受講生は栄養学の基本的知識を身につけていることと英文を読むのを苦にしない英語力を持っていることが望ましい。			
授業計画 第1回：ガイダンス、スポーツ栄養学の歴史 第2回：スポーツ栄養学の基礎 第3回：食事の基本（フードピラミッドと食事バランスガイド） 第4回：エネルギー代謝とは 第5回：炭水化物と練習・試合 第6回：脂肪と体組成・ウェイトコントロール 第7回：タンパク質と筋肉づくり 第8回：ミネラルと骨・血液の健康 第9回：ビタミン・抗酸化物質とコンディショニング 第10回：水分補給と体温調節 第11回：サプリメントとエルゴジェニック 第12回：成長期と女性スポーツの注意点 第13回：栄養アセスメント 第14回：栄養教育			
テキスト Rawson E et al.: Williams' Nutrition for Health, Fitness and Sport. 12th Ed. McGraw Hill, 2019.			
参考書・参考資料等			

International Journal of Sport Nutrition and Exercise Metabolism, Medicine and Science in Sports and Exercise.

学生に対する評価

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、最終テスト（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究7（スポーツ医学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 晴康 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ医学とは、医師など医療従事者が行う学問だけではなく、スポーツに関連した健康やパフォーマンス向上に関する研究も含まれる非常に広い分野の学問である。医学研究をベースに、さまざまな研究の問題点や研究プランニングを学ぶことを目標とする。			
授業の概要 受講者がスポーツ医学に関する任意のトピックスを選択し、バックグラウンドの説明のため、関連した研究論文（英文）の紹介を受講者が順番に行う。また、このトピックスに基づき、検討可能な研究テーマを作成し、議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、自己紹介 第2回：スポーツ医学研究のトピックス（外傷） 第3回：スポーツ医学研究のトピックス（障害） 第4回：ライフサイエンスの倫理の考え方と書類作成 第5回：医学的研究における結果から考察への検討方法について 第6回：興味あるスポーツ医学分野を探る 第7回：スポーツ医学講義（ケガは予防できるか？） 第8回：興味あるテーマに関する論文（日本語）をプレゼンする1 第9回：興味あるテーマに関する論文（日本語）をプレゼンする2 第10回：スポーツ医学講義（ロコモを科学的に検討する） 第11回：興味あるテーマに関する論文（英文）をプレゼンする1 第12回：興味あるテーマに関する論文（英文）をプレゼンする2 第13回：スポーツ医学講義（治癒が長引くスポーツ外傷の問題点とは） 第14回：トピックスに関しての最終ディスカッション、まとめ			
テキスト 「新版 スポーツ整形外科学」 南江堂（中嶋寛之ら）			
参考書・参考資料等 American Journal Sports Medicine, British Journal Sports Medicine, Foot and ankle			

e Int. Journal bone and Joint Surgery
学生に対する評価 授業における発表（35％）、授業中の議論への準備および参加（35％）、授業内レポート（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究8（健康心理学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大石 和男 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、受講生のそれぞれの研究テーマについて心理学を始めとする異分野の側面から思考することで、新たな発見をしたり、より広い視点からのアプローチを見出すことを目指す。			
授業の概要 各専門分野においては、それぞれ継承されてきた手法を用いて、ある枠の中で研究がなされるのが一般的である。しかしながら、異分野の視点を導入することで、新たな発見や思考方法を見出すことも少なくない。本講義では、受講者のそれぞれの研究テーマが心理学的事象とどのように関連するのか、あるいはどのような意義を有するのかについて、討論を通して学習する。内容は、講者の興味により臨機応変に対応する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、自己紹介 第2回：心理学研究の手法 第3回：心理学研究の手法、倫理申請書の書き方 第4回：各受講者の研究テーマの発表 第5回：論文査読方法の説明 第6回：心理学講義1（メンタルヘルスと心理） 第7回：心理学講義2（スポーツと心理） 第8回：心理学講義3（ライフスキルと心理） 第9回：心理学講義4（価値観と心理） 第10回：心理学講義5（生活習慣と心理） 第11回：心理学講義6（人間関係と心理） 第12回：日本語関連文献の発表 第13回：英文関連論文の講読と発表 第14回：これまでの講義内容の確認とまとめ			
テキスト 杉原 他 編「公認心理師標準テキスト心理学的支援法」北大路書房			

参考書・参考資料等
久保 拓弥 著「データ解析のための統計モデリング入門」岩波書店
学生に対する評価
授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、授業内レポート（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究9（バイオメカニクス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井 秀幸 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツや日常生活における身体動作に関するバイオメカニクス（生体力学）分野の研究例を英文学術論文から学ぶとともに、バイオメカニクスの手法を用いて計測・分析する技術を習得する。			
授業の概要 バイオメカニクス分野の国際学術雑誌に掲載されている研究論文の抄読を行い、世界水準の研究について学ぶ。また、バイオメカニクスの研究手法に関する講義に加え、実際にモーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測、Excelおよびプログラミングによる分析を行い、テクノロジーを活用した計測・分析手法を習得する。			
授業計画 第1回：研究について、バイオメカニクスとは 第2回：バイオメカニクスの研究手法（ボール変形量と衝撃力の研究） 第3回：バイオメカニクスの研究手法（身体動作計測による研究） 第4回：バイオメカニクスの研究手法（工学的手法を用いた研究） 第5回：研究論文抄読（Clinical Biomechanics） 第6回：研究論文抄読（Journal of Biomechanics） 第7回：モーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測（VICONの説明） 第8回：モーションキャプチャシステムを用いた身体動作計測（VICONの使用） 第9回：データ処理（VICONデータのクリーニング） 第10回：データ処理（MATLABによるデータ抽出） 第11回：Excelによる分析（運動学的分析） 第12回：Excelによる分析（運動力学的分析） 第13回：プログラミングによる分析（MATLABによる運動学的分析） 第14回：プログラミングによる分析（MATLABによる運動力学的分析）			
テキスト 特定の教科書は使用しない。必要に応じて授業時に資料を配付する。			
参考書・参考資料等			

金子公宥・福永哲夫編 『バイオメカニクスー身体運動の科学的基礎』（杏林書院 2004年）

学生に対する評価

出席および授業への参加度（60％）、最終レポート（40％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究10（スポーツ・運動心理学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川端 雅人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 保健体育、高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標			
スポーツ・運動・教育場面において、やる気やパフォーマンスの向上、または行動変容を促す手法に関する論文を系統的に検証する方法を習得する。また、それらの手法の有効性を量的に検証する方法（メタ分析）を理解する。			
授業の概要			
本授業の学習目標を達成するために必要となる知識と技能を幅広く紹介する。それらの知識・技能習得のため、受講生は各自の興味・関心のある研究題目について課題に取り組み、最終的に研究論文の系統的レビューのまとめを授業内で発表する。国際的に活躍できるよう、本授業は全て英語で行われる。			
授業計画			
第1回：研究論文の系統的レビューとメタ分析の紹介			
第2回：推奨される系統的レビューの手順			
第3回：推奨される系統的レビューの方法			
第4回：データベースを用いた文献の体系的検索			
第5回：検索した文献の系統的レビュー			
第6回：系統的レビューの結果を報告する方法について			
第7回：メタ分析の基本的な概念と知識			
第8回：メタ分析を行う上での最良な指針			
第9回：ソフトウェアを用いたメタ分析の実践（基礎的項目）			
第10回：ソフトウェアを用いたメタ分析の実践（高度な項目）			
第11回：メタ分析の結果を報告する方法について			
第12回：系統的レビューの報告書の作成について			
第13回：メタ分析の報告書の作成について			
第14回：系統的レビューとメタ分析の結果の発表			
テキスト			
Harrer, M., Cuijpers, P., Furukawa, T.A., & Ebert, D.D. (2021). <i>Doing meta-analysis with R: A hands-on guide</i> . London: Chapman & Hall/CRC Press.			

*Other recommended books are introduced in the course.

参考書・参考資料等

Gunnell et al. (2022): Systematic review methods, *International Review of Sport and Exercise Psychology*, DOI: 10.1080/1750984X.2021.1966823

Hagger. (2022): Meta-analysis, *International Review of Sport and Exercise Psychology*, DOI: 10.1080/1750984X.2021.1966824

*Other recommended reading materials are introduced in the course.

学生に対する評価

研究に必要となる基本的学習課題（20%）、系統的レビューの報告書（40%）、系統的レビューの発表（30%）、望ましい学習への積極的貢献（10%）

授業科目名：スポーツウエルネス研究11 (スポーツ方法学)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安松 幹展 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ方法学研究の現在を、主に、国際雑誌の論文などの文献から学びスポーツ方法学のスポーツウエルネスへの貢献を理解する。特にスポーツパフォーマンス分析や、競技種目に対するトレーニングやフィジカルチェック方法を取り上げ、実践的なスポーツ方法学研究手法を理解する。			
授業の概要 本講義では、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、国際雑誌の論文などの欧文を精読し内容を発表し、その後、各内容について、解説し議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス・スポーツ方法学研究の手法 第2回：スポーツパフォーマンス分析に関する文献誦読及び議論 第3回：スポーツパフォーマンス分析 第4回：スポーツ種目特性の理解に関する文献誦読及び議論 第5回：スポーツ種目特性の理解 第6回：フィジカルチェックに関する文献誦読及び議論 第7回：フィジカルチェックの考え方 第8回：体力トレーニングに関する文献誦読及び議論 第9回：体力トレーニングの考え方 第10回：種目特性に関する文献誦読及び議論 第11回：種目特性に応じたフィジカルチェックとトレーニング 第12回：フィジカルコーチの役割に関する文献誦読および議論 第13回：フィジカルコーチの役割 第14回：スポーツ方法学研究のまとめ			
テキスト Javier Mallo, Team sports training -The complexity model-, Routledge, 2020.			
参考書・参考資料等 Jens Bangsbo, Fitness training in Football 1～6, Bangsbosport, 2007～2021.			

学生に対する評価

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、授業内レポート（30％）

授業科目名：スポーツウエルネス研究12 (分子細胞生物学)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 舘川 宏之 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ、健康に関係する分子生物学、細胞生物学および生化学の話題を国際雑誌の論文などの文献から学び、ヒトの細胞内・体内で起きる現象の分子基盤について理解を深める。			
授業の概要 本講義ではスポーツや健康に関する分子生物学、細胞生物学および生化学分野の、日本語または英語の文献や教科書を教材に学ぶ。加えて、受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生が自ら選んだ国際雑誌の総説論文などを精読し、内容を発表し、その後、内容について解説し議論する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、自己紹介 第2回：生化学の手法 第3回：分子生物学・細胞生物学の手法 第4回：課題の読み方の説明 第5回：生化学講義（糖の代謝） 第6回：生化学講義（脂質の代謝） 第7回：課題の発表1（生化学） 第8回：分子生物学・細胞生物学講義（細胞内シグナル伝達） 第9回：分子生物学・細胞生物学講義（筋肉） 第10回：課題の発表2（分子生物学） 第11回：英語総説文献の検索方法、選定 第12回：分子生物学・細胞生物学講義（オルガネラ） 第13回：分子生物学・細胞生物学研究の実際 第14回：英語総説文献発表およびディスカッション、まとめ			
テキスト Molecular Biology of the Cell B. Alberts et al. GARLAND SCIENCE 2015 Principles of Biochemistry Donald Voet et al. Wiley 2010			
参考書・参考資料等			

The Physiology of Physical Training Zsolt Radak, Elsevier 2018, Journal of Biological Chemistry, Journal of Cell Biology, Cell, Journal of Cell Science

学生に対する評価

授業における発表（40％）、授業における討論（30％）、授業内レポート（30％）

授業科目名：スポーツ ウェルネス研究13（ス ポーツマネジメント）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： LEITNER Katrin Jumiko 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校 保健体育、高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 欧米諸国を中心とした海外のスポーツ組織とそのマネジメント手法を日本と比較し、日本のスポーツマネジメントの特徴や課題について学ぶとともに、スポーツマネジメントの基礎理論および国際的課題について理解を深める。			
授業の概要 本授業では、国内外の様々なスポーツ現場におけるマネジメントの実践例を取り上げ、グローバルな視点から日本のスポーツマネジメントの現状や課題について検討する。さらに、スポーツマネジメントの基礎理論を解説するとともに、国際雑誌の研究論文などを精読し、発表および討論を通してスポーツマネジメントの国際的課題について考究する。			
授業計画 第1回：ガイダンスとスポーツマネジメント概論 第2回：国際比較の視点からスポーツマネジメント研究を考える 第3回：スポーツマネジメント研究の手法：質的研究 第4回：スポーツマネジメント研究の手法：量的研究 第5回：国際比較研究の方法と解析 第6回：テーマ①：スポーツ組織とマネジメント 第7回：テーマ①と関連する課題文献査読の発表&討論 第8回：テーマ②：米国におけるスポーツ組織とマネジメント 第9回：テーマ②と関連する課題文献査読の発表&討論 第10回：テーマ③：欧州におけるスポーツ組織とマネジメント 第11回：テーマ③と関連する課題文献査読の発表&討論 第12回：テーマ④：日本におけるスポーツ組織とマネジメント 第13回：テーマ④と関連する課題論文査読の発表&討論 第14回：まとめ：グローバルスポーツマネジメントの展望			
テキスト International Sport Management, Ming Li et al., Human Kinetics, 2019.			
参考書・参考資料等			

Routledge Handbook of Sport Management, Leigh Robinson et al., Routledge, 2012.

学生に対する評価

授業における発表（30％）、授業における討論（30％）、最終レポート（40％）

授業科目名： スポーツウェルネス 研究14（トレーナー科 学）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後関慎司 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 保健体育、高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 ① スポーツ現場における研究手法を解説できる。 ② 自身の研究について発表、報告できる。			
授業の概要 健康やスポーツに対する関心が高まる現在において、スポーツ現場においても、アスレティックトレーナーに求められるものも広がりを見せている。そのような様々な需要に応えるため、エビデンスに基づいたアプローチが大切であり、スポーツ現場における研究手法について解説する。本講義は受講生の自主的な研究活動をサポートする目的として、受講生自身が国際雑誌の論文を精読し、その内容について発表する。また、東日本大震災を経験した日本において、苦難の中でも人を尊重し思いやる気持ち、感謝することの重要性が再認識されたように、スポーツの世界だけでなく、組織の中で、働いていくには、上記のような周囲の人達とのお互いを尊重し合う姿勢を忘れてはならない。スポーツ現場において用いられる技術だけでなく、必要とされるヒューマニティーについても紹介する。			
授業計画 第1回 ガイダンスとトレーナー科学概論 第2回 トレーニング科学における研究手法について 第3回 トレーナー科学における研究手法について 第4回 スポーツ現場と科学研究の関係性 第5回 トレーナー科学に関する文献調査の方法①（興味のある分野・内容について） 第6回 トレーナー科学に関する文献調査の方法②（方法と結果について） 第7回 トレーナー科学に関する文献調査の発表①（プレゼンテーションスキル：スライド・ポスター作成） 第8回 トレーナー科学に関する文献調査の発表②（プレゼンテーションスキル：発表） 第9回 トレーナー科学に関する文献調査の発表③（プレゼンテーションスキル：質疑応答） 第10回 スポーツ現場（トップレベル）の研究課題 第11回 スポーツ現場（ジュニアアスリート）の研究課題 第12回 自身の研究概要についての発表（背景と目的）			

第13回 自身の研究概要についての発表（方法と予想される結果）

第14回 研究測定の実践と解釈、まとめ

テキスト

スポーツパフォーマンス分析入門―基礎となる理論と技法を学ぶ（大修館書店）

日本スポーツ協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）

参考書・参考資料等

臨床スポーツ医学編集委員会：スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第2版（文光堂）

学生に対する評価

授業内発表内容（80%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）